令和7年度
全国保育士会
食育推進研修　報告

令和7年7月31日（木）～8月1日（金）
ホテルグリーンタワー幕張
アーカイブ配信期間　9月1日10:00～9月16日17:30

情勢報告
【食を取り巻く国の動向】
～保育所等における食育を含む栄養・食生活に関する施策の動向～

こども家庭庁成育局成育基盤企画課　栄養専門官　久保陽子氏

児童福祉施設における食事の提供ガイドの改定に向けた検討について

『児童福祉施設における食事の提供ガイド』
（平成22年3月）

『保育所における食事の提供ガイドライン』
（平成24年3月）

10年以上が経過
・食事・食生活、子どもを取り巻く環境や課題の変化
・多角的な視点にて、子どもの発育・発達に対応し、
　食事の提供を通じた子どもの食生活全体への支援

2つのガイドを統合し、よりわかりやすい内容となるよう全体を見直し
『児童福祉施設等における食事の提供ガイド』に改定へ
（令和7年度予定）

改定予定のガイドラインの主な内容等

第1部　児童福祉施設における食事の提供のあり方…施設で共有必須

〇施設における食事の意義・役割
〇施設における食事提供の考え方
〇食事の提供体制に応じた留意事項
〇自然災害等の非常時への備え

第2部　児童福祉施設における食事提供の実践
児童福祉施設における食事提供の取組事例を記載
※こども家庭庁WEBサイトにおいて、具体的な事例を掲載予定（令和7年度）

講義Ⅱ
【食物アレルギーのこどもが楽しい園であるために】

埼玉医科大学総合医療センター　小児科　教授（医師）　是松　聖悟　氏

【アレルギーとは】

・非自己の抗原（敵）が生体内に入ると、その抗原を排除しようとする生体防御反応

・乳幼児期の間にアレルギーを良い状態に持っていくことができれば、そのまま本人の体質になることが可能となるため、乳幼児期にアレルギーを予防し、アレルギーを治すことはその後の人生に重要

・普段から皮膚炎があると、食後の体温上昇でかゆみが増すため、全ての食べ物にアレルギーがあると誤解する
まずは、皮膚症状を治して、アレルゲンを見つけることが重要

・かゆい時は、1週間で治る薬をたっぷり塗ってしっかり治す
・口から入るものは慣れにつながり、皮膚から入るものはアレルギーになりやすい
・乳児期に、気にせず食べる（食べて症状が出た場合は除く）
・検査で陽性であってもアレルギーとは限らない
・食べられる料理や量を見つけ善玉免疫（抑制）を増やすことが重要

【アナフィラキシーに陥った子供にして待いけないこと】
・体位変換にて死亡するリスクが高まるため、子どもを抱えて病院に行くことは危険
・今、食物アレルギーがあることが判明していない子どもも含め、緊急時に統一した対応ができるような体制が必要

【アレルギー疾患患者の災害時の備え】
・アレルギーポータル（日本アレルギー学会・厚生労働省）を参照

講義Ⅲ
【子どもの発達に応じて適切に知っておきたい口腔機能のすべて】

K DENTAL CLINIC 院長 権 暁成 氏

段階	0～4カ月ごろ	5.6カ月ごろ	7.8カ月ごろ	9-11カ月ごろ	12-18カ月ごろ	～2歳6カ月頃
	1	2	3	4	5	
	哺乳期	離乳初期	離乳中期	離乳後期	離乳完了期	幼児食開始
摂食機能	哺乳期	捕食機能獲得	押しつぶし機能獲得	すりつぶし機能獲得	咀嚼機能獲得	
口腔機能	舌前後運動		舌の上下運動	舌の左右運動		
歯の萌出	無歯期	前歯の萌出			第一乳歯期萌出	乳歯咬合完成
身体の発達	定頸	座位可	座位の安定 ハイハイ	つかまり立ち	歩行安定	水分摂取安定

・暦年齢ではなく、お口の中をみましょう！
・お口の周りだけでなく体全体を見ましょう！

・食べる姿勢、意欲、食べ方
・仕上げ磨きをすることでわかることがあります

明日からできる口腔機能を育む運動

①仕上げ磨きをすることで、脱感作・上唇ストレッチ・歯肉のマッサージ
②口を使った遊び（吹き戻し・風船）
③ガラガラうがい＋ブクブクうがい
④うがいが上手ではないお子さんたちには『はっけよいアニマル体操』

【口腔機能発達支援ソング】
全国小児歯科開業医会のHPから
動画を閲覧できます

最後に
・摂食嚥下機能に関わる機能（口腔機能）の多くは、乳幼児期の早期に獲得されます
・成長が著しい時期かつ個人差も大きいため一人一人にあった対応が必要となります
また、この時期に負の因子（誤学習）が加わることによって、乳幼児期の食事のトラブルは発生します
・食べているから大丈夫ではなく、口腔機能の発達を機能面と環境面の両面から支援していくことで、「美味しく、楽しく、安全に」食べることができると考えています

講義Ⅳ
【離乳食の食育～保護者支援を中心にして～】

相模女子大学　栄養科学部健康栄養学科　特任教授　堤　ちはる　氏

≪食べる機能の発達支援≫
・手づかみ食べの利点を保護者に根拠を示して説明を！
①自分で食べる意欲を育てる　⇒　興味関心の育み
②目・手・口の協調動作を育てる　⇒　よく噛む子になる
・噛まない ⇒ 7、8ヶ月の頃に学習をしていない ⇒ 指でつぶせる固さの根菜の煮物
・飲み込まない　⇒　食べ物嫌い、咀嚼不足で飲み込めない

<u>何を飲み込まないかを確認して対策を！</u>

・好き嫌い　⇒　新奇性恐怖（初めての食べ物に恐怖を持つ習性）
＊不安げに様子を見ずに、一緒に食卓を囲む人が「ああ、おいしい」と食べ物に向き合うことで恐怖心が和らぐ

≪「食事を完食すること」の捉え方≫
・子どもの食欲の個人差を考慮し、食べきったという達成感が大切
「やればできる」という自信につながり、自己肯定感の育ちにつながる
※成長曲線のカーブに沿っているかを確認する

≪保護者への食の支援について≫
・「食」は毎日繰り返される日常生活の一部
⇒ ほかにやることがたくさんあるので「食」の優先度が低い
・保護者の関心事は何か？ ⇒ 保護者の希望を最優先
専門職が保護者に望む目標が高すぎないか ⇒ 手作り等
保護者が行動変容しない理由を考えているか ⇒ 利点を具体的に示す

≪心身共に健康な生活を展開する「食育」の原点≫
・子どもの身近にいる保護者や子育てに関わる人が「食」への興味・関心を持ち、
それを子どもの前で表現する！大人は子どもの手本！
⇒ 子どもの「食」への関心を引き出すことにつながる

全国保育士会では、Xを使って保育に関する内容、研修会の情報など全国保育士会の最新情報をお知らせしています。ぜひフォローをお願いします。